

十勝毎日新聞

発行所
十勝毎日新聞社

©十勝毎日新聞社 2001

〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
TEL(代表)0155-22-2121

編集局 0155-22-2121
広告局 0155-23-2323
販売局 0155-24-2222
事業局 0155-22-7555
総務局 0155-24-2299
広尾支局 01558-2-4111
池田支局 01557-2-2367
本別支局 01562-2-2618
新得支局 01566-4-5524
札幌支社 011-261-2161
東京支社 03-3544-1365

夢の宇宙基地へ 成層圏フラット フォーム実験

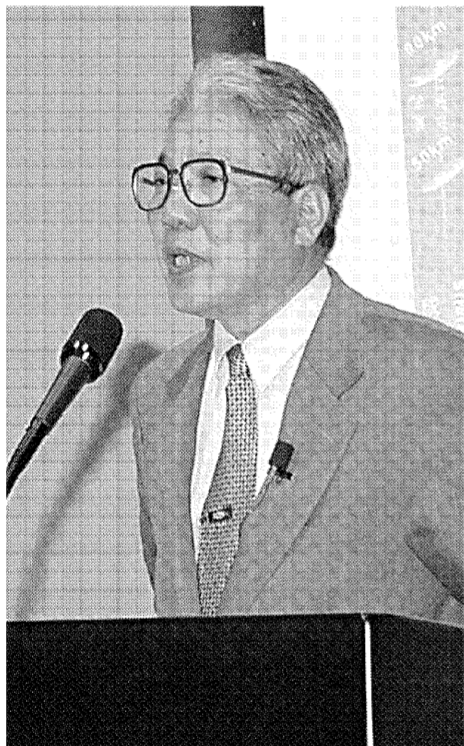
下

「大樹は実験場の有力候補地」。二月に町生涯学習センターで講演した森幹彦航空宇宙技術振興財団理事は、そう言って地元の期待を高めた。成層圏フラットフォーム構想の定点滞空飛行試験地に正式に決まった今森氏は(ライバルの)茨城は飛行試験を実施する際の利便性に優れているが、人口密集地に近いと大樹の決め手が周辺に施設がない広い土地にあったことを示した。しかし決定までには、先行ランナーを追いか

後発のハンディ

ける苦しい展開もあった。「塚原俊平さんの墓参りをしなければならぬ」。伏見悦夫町長がお礼に上京した五日、中川昭一代議士は故塚原代議士の名前を

熱意と広大な土地で乗り越え



「大樹町は有力候補地」。森氏が講演で語ったように定点滞空飛行試験が町に来ることになった

実用化には 課題も山積

伏見悦夫町長がお礼に上京した五日、中川昭一代議士は故塚原代議士の名前を

七、九八年の二年間、塚原氏の地元、茨城県日立市の日立港第五碼頭で行われた。国の地域結集型研究事業の指定を受け、県の科学技術振興財団が実施主体になった。その時製作された四十五メートル級飛行船は、航空宇宙技術研究所に引き継がれ、現在も試験に用いられている。

「成層圏に通信機器や観測機器を積んだ飛行船を滞空させれば、大量・高速通信を可能にするだけでなく、災害の観測などにも応用できる」と説く恩田氏の

は次世代の科学技術戦略を構想する目的で私的な勉強会を始めた。そこに招かれたのが当時飛行船の研究をしていた恩田昌彦産業技術

だが、フラットフォームの実用化には、飛行船の膜材や動力源となる高効率燃料電池の開発など解決すべき多くの課題が控えている。森氏は「本格計画が動き出すのは平成二十年(二〇〇八年)ごろ」と見通している。

(この連載は小林裕司、目黒精一が担当しました)